ベルリン・フィルの縮図
—共に呼応し、生き生きと響く“八重奏”の魅力

満津岡信育（音楽評論）

ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団のメンバーによる室内楽のグループの中でも、とりわけ長い歴史を誇るベルリン・フィル八重奏団は、その母体となる名門楽団の“現在”を、いわば濃縮した形のアンサンブルである。2013年には、第1ヴァイオリンに樫本大進、ヴィオラにグロス、ホルンにドール、ファゴットにビロンが加わり、翌14年および2017年の来日公演で鮮やかな名演を繰り広げたのは、記憶に新しいところだ（今回のファゴットは新メンバーのシュヴァイゲルトが参加）。

インターナショナル化が進んだベルリン・フィルの姿を反映するかのように、さまざまな出自を持つメンバーの共通点と言えば、高度なテクニックと鋭敏な音楽性を兼ね備えている点であり、名門楽団の一員であるという事実である。そして、普段は、指揮者の要求に献身的に応えていくメンバーたちが、室内楽をこよなく愛する樫本大進を中心に、共に呼応し合いながら、生き生きと響きを形づくっていく演奏は、じつに魅力的であるとしか書きようがない。

今回のメインの演目は、当八重奏団の名刺代わりの1曲であるシューベルトの「八重奏曲」。シューベルト特有の歌の魅力と豊かな時情に加え、精妙なアンサンブルの技と絶妙な会話の妙が、満喫できることだろう。また、細川俊夫への委嘱新作（注）である「テクスチュア」が、日本初演される点も見逃せないポイントだ。さらに、1曲目には、シューベルトのピアノ曲の中でも人気が高い「楽興の時」を、デンマークの作曲家ハンズ・アブラハムセンが、八重奏用にアレンジしたものが配されている。「楽興の時」第3番は、日本では長年にわたってNHKの長寿ラジオ番組『音楽の泉』でテーマ曲として用いられているが、残る5曲も名品揃いである。従って、シューベルト・プロとしての枠組みが整えられたプログラムであると同時に、前半は1952年生まれのアブラハムセンと1955年生まれの細川俊夫が紡ぎ上げたスコアに対する取り組みに注目したい。まさに、現在の“ベルリンの風”を肌で感じ取ることができるコンサートになることだろう。

（注）ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団財団とジャパン・アーツによるベルリン・フィル八重奏団のための委嘱

ベルリン・フィル八重奏団 PHILHARMONIC OCTET BERLIN

ベルリン・フィル八重奏団は、結成から80年以上というベルリン・フィルハーモニー管弦楽団のメンバーが組織する多くの室内楽アンサンブルの中で、もっとも長い歴史と伝統をもつ団体のひとつである。その歴史は、1928年、8人の楽員たちがシューベルトの八重奏曲を演奏するために集まったところから始まった。メンバーは現在に至るまで、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団のトップ奏者および世界第一級の演奏家によって構成されており、ヨーロッパをはじめ、世界の諸都市で演奏活動を行っている。当初はヨーロッパを中心に活動していたが、1954年、初めて7週間の南米ツアーを行い、この頃から始まったアメリカ合衆国、カナダへの再三にわたる演奏旅行で成功をおさめた。その後、アフリカ、韓国、中国、マレーシア、ニュージーランド、オーストラリア、旧ソ連、イスラエルなどの各国や、ザルツブルク、ルツェルン、エディンバラ、ベルリンなどの国際音楽祭にも度々招かれ、日本には1957年の初来日以後、定期的に来日している。また1982年には、ベルリン・フィルの創立100周年記念演奏会にも参加した。レパートリーは、ウィーン古典派からロマン派の音楽を中心に幅広く、この編成ならではの編曲作品も含まれている。また1958年、ヒンデミットがこの八重奏団のために八重奏曲を作曲し、自らヴィオラを担当して歴史的初演を行ったのをはじめ、細川俊夫、ヘンツェ、ブラッハー、テーリヒェン、シュトックハウゼン、イサン・ユンなどの著名現代作曲家が、彼らのために作品を残している。

樫本大進（第1ヴァイオリン）
Daishin Kashimoto, 1st Violin

1996年のフリッツ・クライスラー、ロン＝ティボーでの1位ほか、5つの権威ある国際コンクールにて優勝。2010年ベルリン・フィルの第1コンサートマスターに就任。2007年より赤穂国際音楽祭、2008年より姫路国際音楽祭の音楽監督を務める。使用楽器は、株式会社クリスコ（志村晶代表取締役）から貸与された1744年製デル・ジェス「ド・ベリオ」。

ロマーノ・トマシーニ（第2ヴァイオリン）
Romano Tommasini, 2nd Violin

イタリア人の両親のもと、ルクセンブルクとフランスで育った。パリで音楽教育を受け、1983年に修了。ナンシー管弦楽団の第1コンサートマスターを務めた後、1989年にベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の一員となった。

アミハイ・グロス（ヴィオラ）
Amihai Grosz, Viola

1979年イスラエル生まれ。デイヴィッド・チェン、タベア・ツィマーマン、ハイム・タウブに師事。エルサレム弦楽四重奏団の創立メンバー。2010年に第1首席ヴィオラ奏者としてベルリン・フィルに入団。ガスパーロ・ダ・サロの1570年製のヴィオラ。生涯を通じて貸与されている。

HP: http://www.amihaigrosz.com

クリストフ・イゲルブリンク（チェロ）
Christoph Igelbrink, Cello

1958年デュッセルドルフ生まれ。1986年にハンブルク国立歌劇場に入団し、1989年よりベルリン・フィルのメンバーとなった。ベルリン・フィル12人のチェリストたち、フィルハーモニー・ピアノ三重奏団ベルリンのメンバーとしても活動している。

エスコ・ライネ（コントラバス）
Esko Laine, Contrabass

1961年ヘルシンキ生まれ。18歳でフィンランド国立歌劇場のメンバーとなった。1986年以来、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の首席コントラバス奏者を務め、ソリストとしても演奏している。

ヴェンツェル・フックス（クラリネット）
Wenzel Fuchs, Clarinet

オーストリアに生まれ、ペーター・シュミードルに師事。ウィーンで学んだ後、1993年からベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の首席クラリネット奏者となった珍しい経歴の持ち主。名手ライスターの後を継ぎ、類い稀な美音で世界中の奏者、聴衆から注目を浴びている。

シュテファン・ドール（ホルン）
Stefan Dohr, Horn

エッセンとケルンで学び、フランクフルト歌劇場管、ニース・フィルハーモニー管、ベルリン・ドイツ響のソロ・ホルン奏者を経て、1993年ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の首席ホルン奏者となる。これまでに彼に捧げられた多くのホルン協奏曲の初演を行なっている。

シュテファン・シュヴァイゲルト（ファゴット）
Stefan Schweigert, Fagott

1982年イスラエル生まれ。ガッド・レーダーマン、マウリツィオ・ペッツ、クラウス・トゥーネマン、フォルカー・テスマンに師事。ソフィア王妃芸術館管などで活躍後、2007年ベルリン・フィルに入団。室内楽での積極的な活動のほか、バレンボイム・サイード・アカデミーで指導も行う。

特別割引チケット

ジャパン・アーツぴあコールセンター及びジャパン・アーツぴあオンラインチケットで受付
（川崎公演のみ神奈川芸術協会でも受付）

◎**学生券（各ランクの半額）**残席がある場合に限り、10月28日（土）10:00より受付を開始します。＊社会人学生を除く公演当日25歳までの学生が対象です。 当日は学生証を提示の上、ご入場ください。（学生証がない場合、一般価格との差額を頂戴します。）
◎**シニア割引**＝65歳以上の方はS席¥8,100、A席¥6,800でお求めいただけます。
◎車椅子の方は、本人と付き添いの方1名までが割引になります。（東京公演はジャパン・アーツぴあコールセンターのみ、川崎公演は神奈川芸術協会のみで受付）

ベルリン・フィル八重奏団 その他の公演スケジュール

◎11/28㊋ ふくしん夢の音楽堂
㊐024-531-6221
◎11/30㊍ フェニーチェ堺
㊐0570-08-0089
◎12/1㊎ 三重県総合文化センター
㊐059-233-1122

【次のことをあらかじめご承知の上、チケットをお求め下さい。】①やむを得ない事情により、出演者・曲順・曲目等が変更になる場合がございます。②公演中止を除き、お買い求めいただきましたチケットのキャンセル・変更等はできません。③いかなる場合もチケットの再発行はできません。紛失等には十分ご注意下さい。④演奏中は入場できません。開演時間に遅れますと、長時間ご入場をお待ちいただくことになります。時間には余裕をもってお越しください。⑤未就学児の同伴はご遠慮ください。なお、就学児以上の方もご入場には一人1枚チケットが必要です。⑥全席指定です。券面に記載された指定のお座席にてご鑑賞下さい。⑦場内での写真撮影・録音・録画・携帯電話等の使用は、固くお断りいたします。⑧ネットオークションなどによるチケットの転売は、トラブルの原因になりますのでお断りいたします。⑨他のお客様のご迷惑となる場合、主催者の判断でご退場いただく場合がございます。

Twitterでフォローする
@japan_arts

樫本大進含む新体制で十八番のシューベルトを19年ぶりに録音！

シューベルト：八重奏曲
ベルリン・フィル八重奏団

BPOC-0001 ¥3,000（税抜）

【録音】2017年1月23日、30日＆31日　東京オペラシティ・コンサートホール
【レコーディング・プロデューサー】クリストフ・フランケ（Christoph Franke）
【制作・発売】株式会社ウィステリアプロジェクト
【販売】株式会社ソニー・ミュージックソリューションズ
http://octet.wisteriaproject.com